CSRに関する意識調査

～推進者と従業員のギャップの考察～

福井県立武生高等学校　窪田七菜　佐久間想來　谷口心咲　宮本京香

Abstract

We defined "CSR" as a responsibility that companies should have in society. It includes education, environmental protection, and so on. We focused on the difference in awareness between employees' and promoters' of CSR and conducted research on it. The purpose of this paper is to explore the reality of CSR activities and consider how CSR can be improved for all stakeholders. As a result, there is a gap between employees' and promoters' awareness. This gap has a negative influence when they promote CSR activities. Therefore, it's important for all companies to create good environments where workers can participate in CSR activities with strong cooperation. From now on, we'd like to find what causes the gap through interviews and better CSR metrics for all stakeholders.

1　はじめに

近年商品の安全性や品質に関する企業の不祥事、地球温暖化に対する施策などが問われる中、CSR（企業の社会的責任：Corporate Social Responsibility）が注目されている。これに対応するために大企業を中心にCSRに関する部署を設置するなどの取り組みが行われている。

日本では1956年に経済同友会が「経営者の社会的責任の自覚と実践」という提言を行ったことを皮切りに2000年代以降CSRへの関心が高まった。2003年以降ソニーや松下電器産業などの大企業が、企業が社会に貢献することを経営に組み込む「CSR経営」へと方針を切り替え、CSRを担当する部署の設置などを行っている。またCSR活動を評価するため企業評価基準なども提案されている。項目としては人材活用や安全性などが挙げられる。この項目が評価基準に含まれていることから企業が一丸となって取り組むことの重要性が伺える。そこで私達は企業が一丸となりCSR活動に取り組むために必要な要素を調べるため、CSRを担当する部署の従業員や、CSR活動に参加したことがある従業員（以下推進者と表記）と、参加経験のない従業員とのCSRに関する意識のギャップとその影響、そのギャップを埋める方法について考察している。

2　問い

「推進者とその他の従業員のCSRに対する意欲の差（ギャップ）はあるのか」また、「CSRを知ったきっかけとそのギャップは関連しているのか」という問いのもと、研究を進める。日本の企業はCSRについてどの程度の興味や知識があるのかを知り、企業にとってより良いCSRのあり方について考えることをこの研究の目的とする。

この研究では主に清掃活動や募金活動といった代表的なCSR活動を中心に扱うこととする。

3　研究方法

調査1「推進者とその他の従業員のCSRに対する意欲の差（ギャップ）はあるのか」

大企業1社、中小企業2社（順にA社・B社・C社）に以下の項目についてのアンケートを実施した。調査の条件を揃えるため、業種は製造業に限定した。

ーアンケート項目ー

1.貴社で行われているCSR活動についてご存知ですか？

→① 知っていて活動に関わっている
② 知っているが活動には関わっていない
③あまり把握していない

2.1で②と答えた方に質問です。
どのようにして知りましたか？（複数回答可）
→① 会社のCSR活動を直接見て知った
② SNSを通じて知った
③ 会社の広報を通じて知った
④ 他の社員を通じて知った

3.1で①と答えた方に質問です。今後のCSR活動に対する意欲の度合いをお答えください。
※100％→自分から積極的に取り組みたい
0％→あまり関心がない
→ 0%、20%、40%、60%、80%、100%

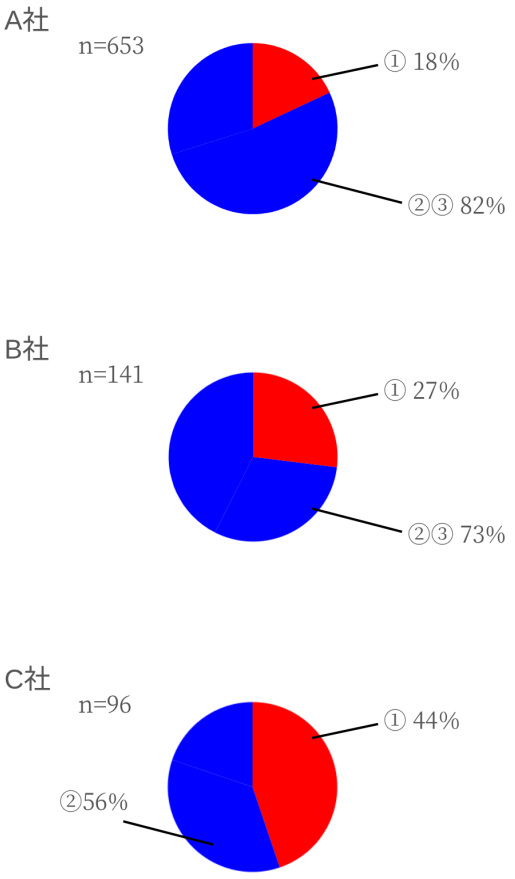
4.3で0～20%と答えた方に質問です。0～20%と答えた理由を教えてください。

5.1で②③と答えた方に質問です。今のCSR活動に対する意欲の度合いを教えて下さい。
※100％→自分から積極的に取り組みたい
0％→あまり関心がない
→ 0%、20%、40%、60%、80%、100%

6.5で0～20%と答えた方に質問です。0～20%と答えた理由を教えてください。

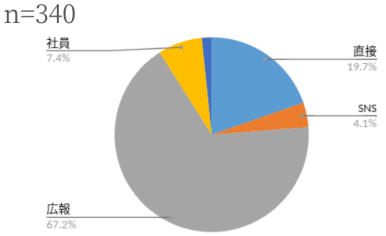
4 結果

（グラフ1）
1.貴社で行われているCSR活動についてご存知ですか？
→① 知っていて活動に関わっている
② 知っているが活動には関わっていない
③あまり把握していない

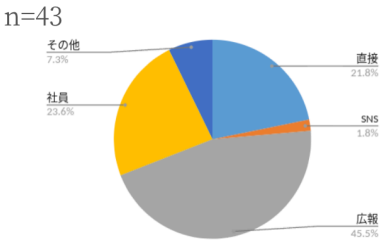


（グラフ2）
2.1で②と答えた方に質問です。
どのようにして知りましたか？（複数回答可）
→① 会社のCSR活動を直接見て知った
② SNSを通じて知った
③ 会社の広報を通じて知った
④ 他の社員を通じて知った

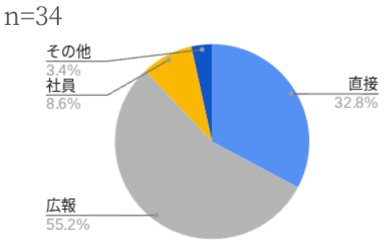
A社



B社



C社



（グラフ3）

3.1で①と答えた方に質問です。今後のCSR活動に対する意欲の度合いをお答えください。

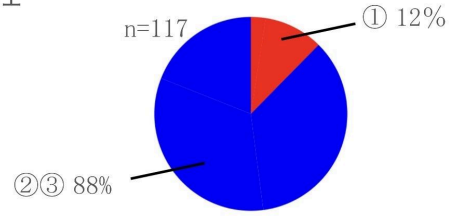
※100%→自分から積極的に取り組みたい

0%→あまり関心がない

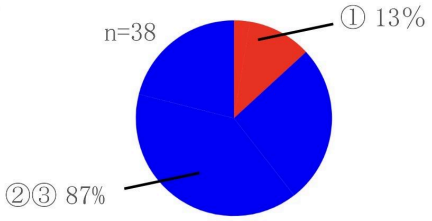
→ 0%、20%、40%、60%、80%、100%

(80、100%を①、0～60%を②③とする)

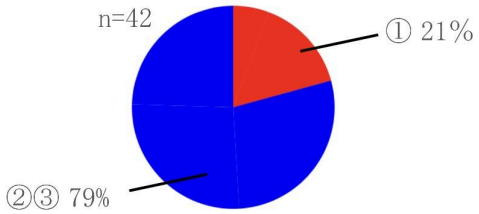
A社



B社



C社



（グラフ4）

5.1で②③と答えた方に質問です。今のCSR活動に対する意欲の度合いを教えて下さい。

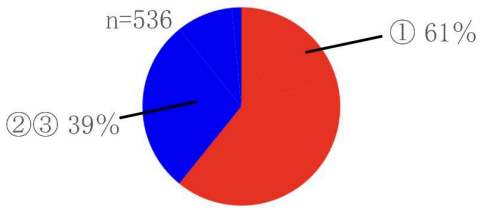
※100%→自分から積極的に取り組みたい

0%→あまり関心がない

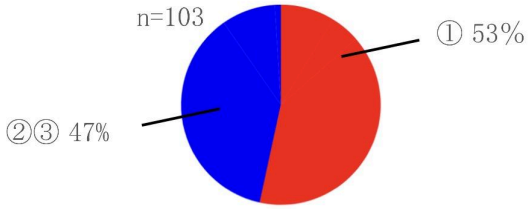
→ 0%、20%、40%、60%、80%、100%

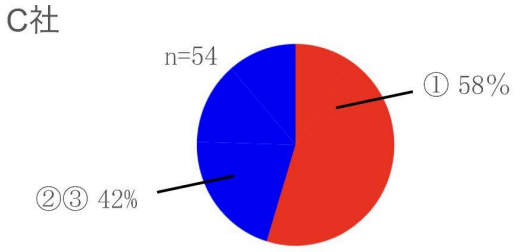
(80、100%を①、0～60%を②③とする)

A社



B社





上のアンケートより、CSR推進者とその他の従業員とでは、CSRに対する意識に差があることがわかった。推進者のほうが意識は高く、その他の従業員の関心は低かった。しかし、CSRに関する知識と興味関心の因果関係や意欲と実際に活動に関わることができる余裕の有無の関係などは明確にはわからないため、今回のアンケートのみではこれらの因果関係について正しいと断言することは難しい。

5 考察

以降、データとして示された参加歴の有無と今後の活動に対する意欲との因果関係について、活動に参加した経験がある社員（＝推進者）ほど、今後の活動に対する意欲も高いと仮定して考察を進める。

今回のアンケート調査から、CSR活動の認知度においては企業間での差はあったが、大企業と中小企業で考えた場合、差はみられなかった。今後のCSR活動に対する意欲に関しては、企業間の差はみられなかったが、CSR活動に一度でも携わったことがある社員と未経験の社員とでは、意識に差がみられた。

これらのことから、企業内での取り組みが社員の認知度や今後の意識に影響していると考えられるため、企業内でのCSR活動を改善することが意欲の向上につながると考える。

6 今後の展望

今回は従業員と推進者との間にあるギャップを、活動への満足度や今後の意欲という観点からアンケートで調査した。しかし、原因についてさらに詳しく調べるには至らなかった。そのために各企業に対し今後のCSR活動方針についてのアンケートなどを実施し、原因を明らかにすることで仮説を検証していきたいと考えている。また「より良いCSR」の評価基準について従業員、推進者、社会の3つの観点から考えていきたい。

7 参考文献

・津久井稲緒（2007）「企業の社会的責任論における責任概念」『横浜国際社会科学研究』
・加賀田和弘（2006）「企業の社会的責任（CSR）-歴史的展開と今日的課題-」『KGPS Review』
・三輪昭子（2015）「アメリカにおけるエシカルという指標の動向ー消費者選好とCSRを強化する試みに注目してー」『現代マネジメント学部紀要』
・太田進一（2005）「CSR（企業の社会的責任）と企業経営のあり方」『同志社商学』
・上原衛 山下洋史 大野髙裕（2009）「ワーク・モチベーションとCSR評価ーハーズバーグの動機付け衛生理論とCSR評価の関係性構築モデルー」『日本経営工学会論文誌』
・井上昌美（2015）「従業員のCSR行動の促進要因の変化に関する研究」『日本経営倫理学会誌』
・老田哲寛 加賀有津子（2012）「従業員参加型森林整備の現状と参加従業員の満足度評価」『日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集』
・サコマサ(2024).「CSRとは？CSR活動を行うメリット・デメリットや実践している日本企業をご紹介！」.Kyozon https://kyozon.net/list/what-is-csr/.(参照2024-06-12).
・サポネット 大庭 真一郎(2023).「CSRとは？注目の理由や具体的な取り組み、メリット・デメリットについて解説」.マイナビ. https://saponet.mynavi.jp/column/detail/tn_keiei_t00_csr_221222.html(参照2024-06-12).
・福井県警察(2023).「防犯CSR活動～活動事例を紹介します～」.福井県警察. https://www.pref.fukui.lg.jp/kenkei/doc/kenkei/syoukai2.html(参照 2024-06-12).
・芝政観光開発株式会社(2023).「CSR」.芝政観光開発株式会社.

http://shibamasa.com/sp/company/csr.php(参照 2024-06-12).
・福井銀行.「福井銀行のCSR」.福井銀行.
https://www.fukuibank.co.jp/aboutus/csr/(参照 2024-06-12).
・村田製作所.「社員インタビュー」.村田製作所.
https://recruit.murata.com/ja-jp/member/interview/039/(参照 2025-01-29).

8 謝辞

本研究を進めるにあたり、CSRに関する貴重なデータをご提供頂いた、株式会社 村田製作所の皆様、株式会社 アイシン福井の皆様、福井県キヤノンマテリアル株式会社の皆様、株式会社 日本エー・エム・シーの皆様にお礼申し上げる。